

2026年度

シラバス



学校法人 湯梨浜学園

湯梨浜学園中学校

〒689-0727 鳥取県東伯郡湯梨浜町田畑3-2-1

TEL (0858)48-6810

FAX (0858)48-6813

シラバス

教科名	国語	科目名	国語	単位数	4		
対象	中学3年	履修形態	必修	授業形態	一斉		
学習の到達目標	① 中高一貫校の特色を生かし、詰め込み学習に終わらず、自分自身で考えて知識を増やす取り組みが出来る。 ② 深い思考力・読解力・表現力を身につけていく。その力を各種文芸コンテスト、検定に活かすことが出来る。 ③ 自分の考えをまとめ、他者に分かりやすく文章や発表に表現できる。						
評価の観点 評価方法	① 知識・技能…定期考査、単元別テストの取り組みで評価。 ② 思考・判断・表現…授業態度、発表用資料作成、課題提出物などで評価。 ③ 主体的学習に取り組む態度…授業への取り組み方、自己評価シートなどで評価。						
学習方法	① 様々な教材を用いた先取り学習を行い、論理的な思考と確かな知識を身につける。 ② 学校独自教材や、型にはまらない多角的な国語へのアプローチ方法で生徒の発想と積極性を育てる。 ③ 他者に自分の考えや思いを、正しく分かりやすく伝えることを目指す取り組みを行う。						
教科書・教材等	新しい国語3（東書） 中学書写（学図） 古文単語コア350（旺文社） 現代文グレートラーニング40レベル2（尚文） キーワードの卵（尚文） 駿台古典文法10題ドリル古文基本編（駿台） 古典グレートラーニング48レベル1（尚文） など						
年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	「国際社会と私たち」 「おくのほそ道」 ・古文の復習・基本	抽象と具体の関係や心情の変化を捉え、自己と世界との繋がりを考えさせる。 優れた表現や文体の特徴に注意して作品を読み味わい、現代にも通じる古人の考え方を捉える。また、作品を通し、用言・助動詞を理解する。	12	10	「水の東西」 「宇治拾遺物語」 ・田舎の児、桜の散るを見て泣くこと	日本の文化に関する文章を読み、文化・習慣の違いを対比しながら認識する。また、要約力を高める。 古語の仕組みを理解するとともに、古文における主語の把握の仕方を学ぶ。また、用言の活用を理解する。	16
5	「万葉・古今・新古今」 「何のために働くのか」	それぞれの和歌が詠まれた背景や作者の心情について理解する。また、作品を通し、表現技法を理解する。 文章の論理の展開の仕方を的確に捉え、内容を理解し、必要な情報を集め、要約する。	12	11	「借虎威」	作品を通し、漢文の句法を学ぶ。また、繰り返し読み味わい文章内容を理解する。	16
6	「いつものように新聞が届いた」 漢文の基本 「論語」	東日本大震災における悲惨な状況を見聞し、考えを深め、次世代に繋げる。また、言葉の力を理解し、情報の意義とメディアの役割について考えを深める。 作品を通し、漢文の基本を学ぶ。また、繰り返し読み味わい、漢文のリズムを感じる。	16	12	「自然と人間の関係をとおして考える」 復習及び発展内容	また、「自然と一」では、論理の展開を理解し、自然と人間の関係に対する主張を読み取る。さらに、二つの作品を通して、要約力を向上させる。	12
7	「百科事典少女」	文学作品を読み、人間や社会について考える。また、登場人物の心の動きを捉え、正確に理解する。	12	1	「蛇足」	作品を通し、漢文の句法を学ぶ。また、繰り返し読み味わい故事成語から、漢文の文の構造を理解する。	12
8	復習及び発展内容		4	2	「動的平衡としての生物多様性」	生物多様性と動的平衡についての考えを、様々な例を踏まえつつ読み取る。	16
9	「おくの細道の旅」	当時の世界観を感じる。また、作品を通し、用言を復習し、助動詞の理解を深める。	16	3	「宇治拾遺物語」 ・「稚児のそら寝」 復習及び発展内容	昔の言葉と現代の言葉とのつながりを理解する。、古典作品を通して、重要単語の復習、用言の総まとめを行い、知識を深める。	12

備考 ・適宜、作文・小論文指導を行う。 ・適宜、書写の授業を行う。

教科 科 名	社会	科 目 名	公民（公共）	単 位 数	4		
対 象	中学3年	履 修 形 態	必修	授 業 形 態	一斉		
学 習 の 到達 目 標	① 日本の政治経済のしくみが理解できる。 ② 社会の一員として生活していく自覚を芽生えさせる。 ③ 習得した見方・考え方を働かせる活動を通し、主体的に生きる公民としての資質・能力を身につける。						
評 価 の 観 点 評 価 方 法	① 知識・技能…定期考査、配信して入力したワークシートをもとに評価する。 ② 思考・判断・表現…授業内の態度、発言や発表、定期考査、ワークシートをもとに評価する。 ③ 主体的学習に取り組む態度…授業態度、発表、ワークシートをもとに評価する。						
学 習 方 法	① 予習と教室での授業を基本とし、解説・補足説明をまとめ、基本事項をおさえる。 ② 副教材等で知識の定着をはかる。 ③ 各単元で設定されている問いに、これまでの知識や基本事項をふまえて答える。						
教科書・教材等	新しい社会 公民（東京書籍） 公共（東京書籍）						
年 間 授 業 計 画							
月	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	時数	月	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	時数
4	【公民】 第2章 個人の尊重と日本国憲法 1 人権と日本国憲法 2 人権と共生社会 3 これからの人権保障	日本国憲法の基本原理を、具体的な生活との関わりから理解する。個人の尊厳と両性の本質的平等、自由・権利と責任・義務の関係が社会生活の基本であることを理解する。	12	10	第2部 第2章 1 法や規範の意義と役割 2 市民生活と私法 3 国民の司法参加	社会規範上の法の特徴、裁判における法の適応と解釈、私法の三原則を理解する。司法権の成立過程や、違憲審査制について実例をもとに理解する。	16
5	第3章 現代の民主政治と社会 1 現代の民主政治 2 国の政治の仕組み 3 地方自治と私たち	政治や議会制民主主義の意義や基本的な考え方について理解する。国会・内閣・裁判所の仕組みと働きについて理解する。住民自治を基本とする地方自治の考え方や、地方公共団体の政治の仕組みについて理解する。	12	11	第2部 第3章 1 現代の経済と市場 2 市場経済における金融の働き 3 財政の役割と持続可能な社会保障制度	経済主体と経済循環について、実際の経済事象と関連付けて理解する。市場の働きと限界、財政のしくみや社会保障の意義と現状について実際の事象と関連づけて理解する。	16
6	第4章 私たちの暮らしと経済 1 消費生活と市場経済 2 生産と労働 3 市場経済の仕組みと金融 4 財政と国民の福祉	消費者の権利と契約、消費者問題、流通の役割について理解する。企業の働きや株式会社のしくみ、現代の企業の特徴と課題を理解する。生産資源を効率よく配分する価格の働きや、金融機関が持つ役割を理解する。国民生活と福祉の向上を図るための政府の役割を理解する。	16	12	第2部 第4章 1 働くことの意義と職業選択 2 労働者の権利と雇用・労働問題	働くことの意義・労働市場の役割、キャリア形成の課題を理解する。国際社会が抱える様々な課題と解決の取り組みを理解する。国際問題解決のための経済的・技術的協力について理解する。	12
7	5 これからの経済と社会 第5章 1 国際社会の仕組み 2 さまざまな国際問題 3 これからの地域社会と日本	問題演習などを行う。	12	1	第2部 第5章 1 国際社会のルールとしくみ 2 国際社会と平和主義 3 国際平和への課題 4 グローバル化する国際経済	国際法の意義と役割・集団安全保障のしくみなどを理解する。冷戦後の世界の諸問題への取り組みを理解する。比較生産費説や国際金融の動向について実際の経済的事象と関連づけて理解する。	12
8	公民のまとめ	問題演習を行う。	4	2	公共のまとめ	問題演習や小論文の対策を行う。	16
9	【公共】 第2部 第1章 1 民主政治と政治参加	地方自治・国会・内閣の役割と権限を、実際の政治事象を手がかりにして理解する。行政の肥大化、日本の選挙制度や政党の課題、ネット時代の世論形成のしくみを理解する。	16	3	公共のまとめ	問題演習や小論文の対策を行う。	12

備考

教科 科 名		数学		科 目 名		代数 (数Ⅰ)		単 位 数		3	
対 象		中学3年		履 修 形 態		必修		授 業 形 態		習熟度別	
学 習 の 到 達 目 標		① 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解することともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理できる技能を身につける。									
		② 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。									
		③ 数学の良さを認識し積極的に数学を活用する態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。									
評 価 の 観 点 評 価 方 法		① 「知識・技能」定期テストによる評価									
		② 「思考・判断・表現」小テストや定期テストによる評価									
		③ 「主体的に学習に取り組む態度」提出物や授業中の取り組みによる評価									
学 習 方 法		① 授業の進度はやや速く、復習に時間をかけ既習範囲の定着を図る。									
		② 教材等を用いて、途中経過を丁寧に記述することを通し、他人に納得してもらえ説明が書けるよう心がける。									
		③ 大学入試問題など複雑な問題に取り組み、解答に繋がる方針を立てていくことで、思考力を養う。									
教 科 書・教材等		高等学校 数学Ⅰ (数研出版)、未来へひろがる数学3 (啓林館)									
		4STEP 数学Ⅰ+A(数研出版)、チャート式基礎からの数学Ⅰ+A(数研出版)									
年 間 授 業 計 画											
月	学 習 内 容		学 習 の ね ら い		時数	月	学 習 内 容		学 習 の ね ら い		時数
4	＜数学Ⅰ＞ 第1章 数と式 第1節 式の計算 1. 整式の加法と減法 2. 整式の乗法		展開の公式を利用できるようにする。式の形の特徴に着目して変形し、展開の公式が適用できるようにする。		9	10	第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 1. 関数とグラフ		グラフの平行移動を利用して、いろいろな2次関数のグラフがかけられるようにする。		12
5	3. 因数分解 第2節 実数 4. 実数 5. 根号を含む式の計算 第3節 1次不等式 6. 不等式の性質		因数分解の公式を利用できるようにする。また、式の形の特徴に着目して変形し、因数分解の公式が適用できるようにする。 不等式の性質を理解し、文章題を立式し解けるようにする。		9	11	2. 2次関数のグラフ		グラフの平行移動を利用して、いろいろな2次関数のグラフがかけられるようにする。		12
6	7. 1次不等式 8. 絶対値を含む 方程式・不等式		絶対値の意味を理解し、絶対値を用いた方程式と不等式が解けるようにする。		12	12	第2節 2次関数の値の変化 3. 2次関数の最大・最小		関数の値の変化をグラフから考察でき、2次関数が最大値、最小値を持つことを理解し、それを求めることができるようにする。		9
7	第2章 集合と命題 1. 集合 2. 命題と条件 3. 命題と証明		図表示などを用いて、集合についての基本的な事項を理解できるようにする。 命題を論理的に考えることで、真偽の判断ができるようにする。また、間接証明法を用いて、命題を証明できるようにする。		9	1	4. 2次関数の決定		様々な条件を満たす2次関数の方程式を求めることができるようにする。		9
8	集合と命題の演習		既習範囲の演習を行い定着を図る。		3	2	第3節 2次方程式と2次不等式 5. 2次方程式		2次関数について理解し、関数を用いて数量の変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを具体的な事象の考察や2次不等式を解くことなどに活用できるようにする。		12
9	集合と命題の演習		既習範囲の演習を行い定着を図る。		12	3	6. 2次関数のグラフとX軸の位置関係 7. 2次不等式 2次関数 既習範囲の演習		2次不等式と2次関数を具体的な事象に活用できるようにする。 既習範囲の演習を行い定着を図る。		9

備考

教科名	数学	科目名	幾何(数A)	単位数	2
対象	中学3年	履修形態	必修	授業形態	習熟度別
学習の到達目標	① 数量、図形などに関する基礎的な概念や原理・法則を理解する。 ② 数学的な表現や処理の仕方を習得し、事象を数理的に考察する能力を高める。 ③ 数学的活動の楽しさ、数学的な見方や考え方の良さを知り、それらを進んで活用する態度を育てる。 ④ 数学に興味・関心を持ち、意欲的に取り組む姿勢を養う。				
評価の観点 評価方法	① 「知識・技能」定期テストによる評価 ② 「思考・判断・表現」小テストや定期テストによる評価 ③ 「主体的に学習に取り組む態度」提出物や授業中の取り組みによる評価				
学習方法	① 教室での授業を基本とし、予習を行い、授業の進度はやや速く、復習に時間をかけ既習範囲の定着を図る。 ② 放課後に演習問題、質問に応じる。 ③ 個人添削を行う。				
教科書・教材等	高等学校 数学A(数研出版)、数学 I (数研出版)、未来へひろがる数学 3 (啓林館) 4 STEP 数学 I + A(数研出版)、チャート式基礎からの数学 I + A(数研出版)				

月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 2. 場合の数 3. 順列 4. 組合せ	場合の数を求めるときの基本的な考え方についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	6	10	3. 三角比の拡張	直角三角形の斜辺の長さを適当に変えて、三角比を考察することができる。 これまでに学習している数や図形の性質に関する拡張と対比し、三角比を鋭角から鈍角まで拡張して考察しようとする。	8
5	第2節 確率 5. 事象と確率 6. 確率の基本性質	確率の意味を理解し基本的な確率の計算ができるようにする。 確率の基本性質を理解し余事象の確率など、基本的な確率の計算ができるようにする。	6	11	第2節 三角形への応用 4. 正弦定理	正弦定理における $A=B=C=D$ の形の関係式を適切に処理できる。 正弦定理を用いて、三角形の辺の長さや外接円の半径が求められる。 三角形の辺と角、外接円の半径の間に成り立つ関係式として、正弦定理を導くことができる。	8
6	7. 独立な試行と確率 8. 条件付き確率	独立な試行について理解し、そのさまざまな確率を求めることができるようにする。 条件付き確率や確率の乗法定理の考えに興味・関心をもち、積極的に活用しようとする。また、条件付き確率を用いて頻度確率(原因の確率)を求めることができる。	8	12	5. 余弦定理	余弦定理を用いて、三角形の辺の長さや角の大きさが求められる。 三角形の辺と角の間に成り立つ関係式として、余弦定理を導くことができる。	6
7	9. 期待値	期待値を求めて、結果が不確実な状況下において、その選択が有利かを判断する際の基準として利用することができる。	6	1	6. 正弦定理と余弦定理の応用	余弦定理や正弦定理を用いて、三角形の残りの辺の長さや角の大きさを求めることができる。	6
8	<数学 I> 第4章 図形と計量 第1節 三角比 1. 三角比	直角三角形において、正弦・余弦・正接を求めることができ、応用問題に利用できる。	2	2	7. 三角形の面積 8. 空間図形への応用	三角比を用いた三角形の面積公式を理解している。 正弦定理、余弦定理を空間図形の計量に応用できる。	8
9	2. 三角比の相互関係	三角比の相互関係を利用して、1つの値から残りの値を求められる。	8	3	問題演習		6

備考

教科名	理科	科目名	理科	単位数	5(3)
対象	中学3年	履修形態	必修	授業形態	一斉
学習の到達目標	① 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するための技能を身に付ける。 ② 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ③ 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。				
評価の観点 評価方法	① 知識・技能・・・定期考査、実験技能やレポートの提出状況、及びその内容で評価 ② 思考・判断・表現・・・実力テストや定期考査で評価 ③ 主体的に学習に取り組む態度・・・授業での活動状況、課題の取り組み状況で評価				
学習方法	① 授業の板書内容をノートに整理し、要点をとらえる。 ② 授業時に行う演習で、基本事項を確実に押さえる。 ③ 自ら進んで問題演習を行い、理解を深める。				
教科書・教材等	未来へひろがるサイエンス3（啓林館）・中学の理科-物理・化学-（教育開発出版） 中学の理科-生物・地学-（教育開発出版）・改訂 化学基礎(東書				

年間授業計画									
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数		
4	中学理科エネルギー編① ・仕事とエネルギー ・多様なエネルギーとその移り変わり	・滑車を使ったときの仕事について学ぶ。 ・エネルギーの変換について学ぶ。 ・化石燃料について学ぶ。 ・放射線について学ぶ。	9	10	第3章 化学結合 1. イオンとイオン結合 2. 分子と共有結合	・イオン結合のでき方と性質を学ぶ。 ・共有結合のでき方と性質、配位結合について学ぶ。 ・電気陰性度と分子の極性について学ぶ。	12		
5	化学変化とイオン ・水溶液とイオン ・電池とイオン ・酸・アルカリと塩	・電解質について学ぶ。 ・イオンについて学ぶ。 ・電池の仕組みについて学ぶ。 ・酸性とアルカリ性（塩基性）の性質や強さの要因について学ぶ。 ・中和について学ぶ。	9	11	3. 金属と金属結合 4. 物質の分類	・金属結合のでき方と性質について学ぶ。 ・ファンデルワールス力と水素結合について学ぶ。 ・物質の分類方法を学ぶ。	12		
6	環境編 ・自然界のつりあい ・人間と環境	・食物連鎖について学ぶ。 ・微生物のはたらきについて学ぶ。 ・自然界での物質の循環を学ぶ。 ・水質調査の仕方について学ぶ。	12	12			9		
7	化学基礎 第1編 物質の状態 第1章 物質の構成元素 1. 物質の成分 2. 物質の構成元素 3. 物質の三態	・物質の分類や分離、生成方法を学ぶ。 ・単体、化合物、元素の概念を学ぶ。 ・物質の状態変化について学ぶ。	9	1	第2編 物質の変化 第1章 物質と化学反応式 1. 原子量分子量式量 2. 物質質量 3. 溶液の濃度 4. 化学反応式と量的関係	・相対質量の概念を学ぶ。 ・モル質量の求め方を学ぶ。 ・物質質量とその単位「mol」について学ぶ。 ・気体の密度について学ぶ。 ・質量パーセント濃度とモル濃度の求め方を学ぶ。 ・化学反応式のつくり方を学ぶ。 ・化学反応における物質の量的関係について学ぶ。	9		
8			3	2			12		
9	第2章 原子の構造と元素の周期表 1. 原子の構造 2. 元素の周期律と元素の性質	・原子の構造、電子配置と原子の性質との関係性を学ぶ。 ・元素の周期律と元素の性質を学ぶ。	12	3			9		

備考

教科名	理科	科目名	理科(物理選択)	単位数	5(2)		
対象	中学3年	履修形態	選択	授業形態	一斉		
学習の到達目標	① 自然現象に対する興味・関心を高め、目的意識をもって、観察・実験などを行う。 ② 科学的に調べる能力と態度を育てるとともに、自然現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。						
評価の観点 評価方法	① 知識・技能・・・定期考査、実験技能やレポートの提出状況、及びその内容で評価 ② 思考・判断・表現・・・実力テストや定期考査で評価 ③ 主体的に学習に取り組む態度・・・授業での活動状況、課題の取り組み状況で評価						
学習方法	① 授業の板書内容をノートに整理し、要点をとらえる。 ② 授業時に行う演習で、基本事項を確実に押さえる。 ③ 自ら進んで問題演習を行い、理解を深める。						
教科書・教材等	高等学校 改訂 科学と人間生活（第一学習社）						
年 間 授 業 計 画							
月	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	時数	月	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	時数
4	<全員> 運動の表し方 1. 速度 2. 加速度	・速度の表し方を学ぶ。 ・扱う文字式を学ぶ。 ・等加速度運動の公式を学ぶ。 ・v-tグラフ、x-tグラフの読み取り・活用を学ぶ。	6	10	3. 運動の法則	・運動方程式の使い方を学ぶ。 ・摩擦力の使い分けを学ぶ。 ・荒い面での運動方程式について学ぶ。 ・液体や気体から受ける抗力について学ぶ。	8
5			6	11			8
6	落体の運動 1. 自由落下 2. 投げおろし運動 3. 投げ上げ運動 4. 水平投射	・自由落下の公式を学ぶ。 ・投げおろし運動の公式の使い方を学ぶ。 ・投げ上げ運動の公式の使い方を学ぶ。 ・水平投射の公式の使い方を学ぶ。	8	12	仕事とエネルギー 1. 仕事 2. 力学的エネルギー	・仕事の表し方を学ぶ。 ・運動エネルギーについて学ぶ。 ・位置エネルギーについて学ぶ。 ・力学的エネルギー保存の法則について学ぶ。 ・粗い面でのエネルギーについて学ぶ。	6
7	5. 斜方投射	・速度の水平成分・鉛直成分の表し方を学ぶ。 ・斜方投射の公式の使い方を学ぶ。	6	1			6
8	<物理選択者のみ> 運動の法則 1. 力とそのはたらき 2. 力のつり合い	・力の種類と表し方を学ぶ。 ・力の合成・分解について学ぶ。 ・力のつり合いの表し方を学ぶ。	2	2	熱とエネルギー 1. 熱量保存 2. 熱量と物理変化 3. 熱と仕事	・熱量保存則について学ぶ。 ・水の物理変化と与える熱の関係について学ぶ。 ・熱サイクルについて学ぶ。	8
9			8	3			6

備考：1学期は物理分野・生物分野どちらも履修。2学期よりどちらか選択して受ける。

教科名	理科	科目名	理科(生物選択)	単位数	5(2)		
対象	中学3年	履修形態	選択	授業形態	一斉		
学習の到達目標	① 自然現象に対する興味・関心を高め、目的意識をもって、観察・実験などを行う。 ② 科学的に調べる能力と態度を育てるとともに、自然現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。						
評価の観点 評価方法	① 知識・技能・・・定期考査、実験技能やレポートの提出状況、及びその内容で評価 ② 思考・判断・表現・・・実力テストや定期考査で評価 ③ 主体的に学習に取り組む態度・・・授業での活動状況、課題の取り組み状況で評価						
学習方法	① 授業の板書内容をノートに整理し、要点をとらえる。 ② 授業時に行う演習で、基本事項を確実に押さえる。 ③ 自ら進んで問題演習を行い、理解を深める。						
教科書・教材等	高等学校 改訂 科学と人間生活（第一学習社）						
年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	＜全員＞ 生物の特徴 1. 生物の多様性と共通性	・生物の多様性と共通性について学ぶ。	6	10	3. 遺伝情報の分配	・遺伝情報の分配と分配された遺伝情報について学ぶ。 ・体細胞分裂の実験観察を行う。	8
5	2. エネルギーと代謝	・生命活動とそれを支えるエネルギーについて学ぶ。 ・酵素反応の実験観察を行う。	6	11	生物の体内環境 1. 体液という体内環境 2. 腎臓と肝臓	・細胞が安定した生命活動を維持できるしくみを学ぶ。 ・腎臓と肝臓のはたらきを学ぶ。	8
6	3. 光合成と呼吸	・光エネルギーを化学エネルギーに変える光合成と生命活動に必要なエネルギーを取り出す呼吸について学ぶ	8	12	3. 神経とホルモンによる調節	・神経とホルモンによる情報伝達と分泌調整のしくみを学ぶ。	6
7			6	1	4. 免疫	・免疫によるたくみな生体防御のしくみを学ぶ。	6
8	＜生物選択者のみ＞ 遺伝子とそのはたらき 1. 遺伝情報とDNA	・DNAの構造と遺伝情報の関係について学ぶ。 ・DNAモデルを作製する。	2	2	生物の多様性 1. さまざまな植生 2. 植生の遷移 3. 気候とバイオーム生態系とその保全 1. 生態系	・陸上でみられるさまざまな植生について学ぶ。 ・植生が移り変わる過程とそのしくみについて学ぶ。 ・気候ごとの植生と生物のまとまりを学ぶ。 ・生態系の成り立ちや生物どうしのつながりを学ぶ。	8
9	2. 遺伝情報の発現	・遺伝情報からタンパク質が合成される過程を学ぶ。	8	3	2. 物質循環とエネルギーの流れ 3. 生態系のバランス 4. 人間生活と生態系の保全	・炭素の循環に伴ってエネルギーが移動していることを学ぶ。 ・窒素の循環について学ぶ。 ・生態系のバランスとは何かを考える。 ・生態系に及ぼす人間活動の影響と生態系の保全の重要性について考える。	6

備考：1学期は物理分野・生物分野どちらも履修。2学期よりどちらか選択して受ける。

教科 科 名	音楽	科 目 名	音楽	単 位 数	1		
対 象	中学3年	履 修 形 態	必修	授 業 形 態	一斉		
学 習 の 到達 目 標	① 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。 ② 楽曲構成の豊かさや美しさを感じ取り、表現の技能を伸ばし、創造的に表現する能力を高める。 ③ 音楽に対する総合的な理解を深め、幅広く鑑賞する能力を高める。						
評 価 の 観 点 評 価 方 法	① 自己のイメージをもち、感性を働かし、創造的で個性豊かに技能を身に付けている。 ② 音楽文化に対する総合的な理解を深め、そのよさや美しさを個性豊かに味わう。 ③ 音楽文化を愛好・尊重し、個性豊かに意欲的・主体的に音楽活動を行い、その喜びを味わう。						
学 習 方 法	① 腹式呼吸による豊かで自然な発声を身につける。 ② 和楽器の基本奏法を学ぶ。 ③ 楽典の基礎を理解し、視唱(奏)力を付ける。						
教科書・教材等	中学生の音楽2・3下(教育芸術社)、中学生の器楽(教育芸術社)ほか						
年 間 授 業 計 画							
月	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	時数	月	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	時数
4	「花」 「早春賦」	・腹式呼吸を基本とした豊かな発声を行う。 ・基本的な発声に加え、混声合唱としての響きの美しさを聴き合い、のびのびと楽しく表現出来るようになる。	3	10	「星に願いを」 「モルダウ」 「ホフマンの舟歌」 ＊9月の内容の継続	・＃・♭の運指を覚え、美しい音を出せるようにする。 ・質の高いアンサンブルを目指す。	4
5	「心の瞳」	・混声合唱の調和を目指す2～3部合唱を行う。	3	11	鍵盤楽器・バレエ・合唱 ・協奏曲の名曲 能・雅楽	・鑑賞を行う。 ・西洋音楽に偏ることなく、幅広い音楽観を身に付ける。	4
6			4	12			3
7			3	1	和楽器の種類と歴史を学ぶ	・和楽器による演奏を行う。 ・我が国の伝統的な音楽文化の良さに気づき、尊重する心を育てる。	3
8			1	2	「卒業式関連唱歌」	・混声合唱の調和を目指す2～3部合唱を行う。	4
9			4	3			3

備考：曲目は変更される場合があります

教科名		美術		科目名		美術		単位数		1	
対象		中学3年		履修形態		必修		授業形態		一斉	
学習の到達目標		① 表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育てる。 ② 感性を豊かにし、美術の基礎的能力を伸ばし、豊かな情操を養う。									
評価の観点 評価方法		① 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。（美術への関心・意欲・態度） ② 感性や想像力を働かせて豊かに発想し、よさや美しさなどを考え心豊かで創造的な表現の構想を練っている。（発想や構想の能力） ③ 感性や造形感覚などを働かせて、表現の技能を身に付け、意図に応じて表現方法などを創意工夫し創造的に表している。（創造的な技能）									
学習方法		個人制作と一斉授業。									
教科書・教材等		美術2・3（下）（日文）、美術資料（秀学社） 水彩用具、スケッチブック、美術資料など									
年間授業計画											
月	学習内容		学習のねらい		時数	月	学習内容		学習のねらい		時数
4	鉛筆で静物、風景を描く。 人物のクロッキーなど。		対象をよく観察して形、表情、質感、明暗、量感などを描写する。		3	10	シナ材の板から彫刻刀を使って木彫する。 ＊9月の内容の継続		図柄やデザインを工夫し、美しい木彫を創造する。		4
5					3	11	シュールレアリズム絵画 超現実的な絵画を描いてみる。		ディペイズマンなどの技法を取り入れた表現を試みる。		4
6					4	12					3
7	水彩、色鉛筆で静物、風景を描く。		鉛筆デッサンで学んだ明暗、量感などを色彩で表現する。		3	1	鑑賞する。		仏像等を鑑賞することで、当時の時代背景と美術作品の関連性を理解する。		3
8					1	2	自画像を描く。		今の気持ちや感じ取ったことをもとに表現する。		4
9	シナ材の板から彫刻刀を使って木彫する。		図柄やデザインを工夫し、美しい木彫を創造する。		4	3					3

備考

教科名	保健体育	分野名	保健体育	単位数	3		
対象	中学3年	履修形態	必修	授業形態	一斉		
学習の到達目標	① 心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。						
評価の観点 評価方法	① 忘れ物や提出物などを含め、授業を通して自らを高めようとする意欲・関心・態度を評価する。 ② 各種目（内容）の知識・技能をテストによって総合的に評価する。 ③ 各学期ごと、自己の振り返り、努力・工夫したことを思考・判断として総合的に評価する。						
学習方法	① 集団行動 ② 基礎的・合理的な運動の実践 ③ 教科書・資料を用いた学習						
教科書・教材等	必要に応じて視聴覚教材 中学校保健体育（大日本図書）						
年 間 授 業 計 画							
月	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	時数	月	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	時数
4	体づくり運動	体を動かす楽しさや心地よさを味わい、健康の保持増進や体力の向上を図り、目的に適した運動の計画を立て取り組むことができる。	9	10	球技：ネット型 （バレーボール）	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームが展開できる。 ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開する。	12
5	陸上競技	記録の向上や競技の楽しさや喜びを味わい、各種目特有の技能を身につける。 積極的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする こと、自己の責任を果たそうとすることなどや、健康・安全を確保することができる。	9	11			12
6		技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できる。	12	12	球技：ネット型 （バドミントン/卓球）	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームが展開できる。 ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開する。	9
7	球技：ゴール型 （サッカー/フットサル）	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームが展開できる。 ゴール型では安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによって前への侵入などから攻防を展開すること。	9	1			9
8	※体育理論 文化としてのスポーツの意義	文化としてのスポーツの意義について理解する。	3	2	球技：ゴール型 （バスケットボール）	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームが展開できる。 ゴール型では安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによって前への侵入などから攻防を展開すること。	12
9	※健康な生活と病気の予防	健康な生活と疾病の予防について理解を深めることができるようにする。	12	3			9

備考 気象状況（猛暑）による運動禁止や制限によって、学習内容の変更があり得る。

教科名	技術・家庭	分野名	家庭分野	単位数	1		
対象	中学3年	履修形態	必修	授業形態	一斉		
学習の到達目標	① 実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な衣食住に関する基礎的な知識と技術を習得する。 ② 家庭の機能について理解を深め、課題をもって生活をより良くしようとする能力と態度を身につける。						
評価の観点 評価方法	① 知識・技能…ワークシートなどをもとに評価する。 ② 思考力・判断力・表現力…ワークシートや実験シートなどをもとに評価する。 ③ 主体的学習に取り組む態度…授業態度、ワークシートなどをもとに評価する。						
学習方法	① 教室での一斉授業で内容を理解する。 ② 体験の中で実践的な態度を身につけていく。						
教科書・教材等	技術・家庭 家庭分野（教育図書株式会社）						
年 間 授 業 計 画							
月	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	時数	月	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	時数
4	A 家族・家庭生活 ＜2章＞ 幼児の生活と家族	・ 幼児の体の発達の特徴を理解する。 ・ 幼児の運動機能の発を理解する。	3	10		・ 幼児を観察したり、実際にふれ合ったりすることを通して、幼児についての理解を深める。 保育実習：〇〇こども園	4
5		・ 幼児の言葉や情緒、社会性、もののとらえ方の発達の特徴を理解する。 ・ 幼児が生活習慣を身につけるには、まわりの大人の支えが必要であることを理解する。	3	11	C 消費生活・環境 ＜1章＞ 私たちの消費生活	・ 消費者としての自覚を持つ。 ・ 意思決定のプロセスにそって、商品購入を考えることができる。 ・ 契約によって発生する権利と義務を理解する。	4
6	*B 衣食住の生活 ＜3章＞ 調理と食文化	・ 幼児の一日の生活の特徴を理解する。 ・ 幼児にとっての遊びの意義を理解する。 *・ 幼児のおやつを作る。 調理実習：蒸しパン	4	12		・ いろいろな販売方法の特徴について理解する。 ・ いろいろな支払い方法の特徴について理解する。 ・ 事業者と消費者には情報量や交渉力に格差があることを理解する。	3
7		・ 幼児の心身の発達と遊びには深いかかわりがあることを理解する ・ 幼児の発達を支える家族の役割を理解する。 ・ 幼児の発達を支える地域の役割を理解する。	3	1		・ 中学生に身近な消費者トラブルについて理解する。 ・ 消費者を守る法律や制度を理解する。 ・ 消費者トラブルの解決方法と、解決のための行動の意味を理解する。	3
8		・ 幼児とのかかわり方を理解する。	1	2	＜2章＞ 消費者の権利と責任	・ 消費者の権利と責任を理解する。 ・ 生活の中で消費者の権利が果たす役割について考える。 ・ 消費者の権利と責任のかかわりを理解する。 ・ 自分や家族の消費生活が社会に与える影響について理解する。 ・ 自分にできることを考える。	4
9		・ 幼児を観察したり、実際にふれ合ったりすることを通して、幼児についての理解を深める。 （実習に向けての計画・準備を含む）	4	3	*B 衣食住の生活 ＜3章＞ 調理と食文化	・ 自分や家族の消費生活が環境に及ぼす影響について理解する。 ・ 自分や家族にできることを考え、行動できる。 *・ 幼児のおやつを作る。 調理実習：牛乳かん	3

教科 科 名	外国語	科 目 名	英語	単 位 数	7		
対 象	中学3年	履 修 形 態	必修	授 業 形 態	一斉		
学 習 の 到達 目 標	① 英語の音声や語彙、表現、文法などの理解を深めるとともに、これらの知識を4技能による実際のコミュニケーションにおいて適切に活用できるようにする。 ② コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や聞き手の意図などを的確に理解できるようにする。 ③ 英語の背景にある文化に対する理解を深め、主体的・自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。						
評 価 の 観 点 評 価 方 法	① 4技能（読む・書く・聞く・話す）のための知識と技能を身につけているかという観点で、定期考査、実力テスト、小テストなどによる評価を行う。（知識・技能） ② 学習した知識や技能を活用できているかという観点で、定期考査、実力テスト、授業時における英語活動などによる評価を行う。（思考・判断・表現） ③ 異文化理解や英語を用いてのコミュニケーションへの主体的な取り組みという観点で、授業や課題への取り組み、提出物などによる評価を行う。（主体的に学習に取り組む態度）						
学習方法	① 予習にて、本文理解に必要な語彙や文法事項を確認しておく。 ② 授業を通して、本文内容や文法事項などを理解する。 ③ 読む・聞く・音読する・書く・発表するなど、積極的に教科書内容に触れる。 ④ 英語を通して、情報や主張・意見を的確に理解できるよう復習に努める。						
教科書・教材等	教科書 NEW TREASURE STAGE 3 (Z会) 副教材 NEW TREASURE STAGE 3 文法問題集 (Z会) 速読英単語入門編・必修編 (Z会) NEW CROWN 3 (三省堂)						
年 間 授 業 計 画							
月	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	時数	月	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	時数
4	Lesson 1 過去のある時点よりも前にしたことや状態を、過去と結びつけて表現する	【時制・完了形】 現在完了／現在完了進行形 過去完了／過去完了進行形 大過去／時制の一致による過去完了	21	10	物や人の特徴を説明したり、補足説明をしたりする	関係副詞where, when, why 関係副詞how / 非制限用法	28
	Lesson 2 過去の推量や過去の習慣を表現する	【助動詞の発展的用法】 推量を表す助動詞 would / used to など 助動詞＋have＋過去分詞			Lesson 8 時や場所、理由などをより詳しく説明する	【名詞節】 疑問詞に導かれた名詞節 What do you think ～？ 名詞節を導くif, whether It ～ that ...	
5	Lesson 3 人に対する評価や行為の目的を伝える	【不定詞】 復）It ～for (of)－to 復）in order to / 不定詞＋前置詞／不定詞の否定形 使役動詞／知覚動詞 seem (appear) to 完了不定詞	21	11	Lesson 9 名詞の働きをするさまざまな表現を使う	【分詞・分詞構文】 SVC(＝分詞), SVOC(＝分詞) 分詞構文 否定形/完了形の分詞構文	28
	Lesson 4 人に行為をさせたことを話せる	【受動態の発展的用法】 助動詞を用いた受動態 進行形／完了形の受動態 句動詞・使役動詞・知覚動詞の受動態			Lesson 10 文に‘状況’や‘理由’などの情報を加える	【比較】 比較級を用いた表現 原級を用いた表現 最上級を用いた表現	
6			28	12	Lesson 11 事実とは異なることを想像して表現する	【仮定法】 仮定法過去 仮定法過去完了 I wish ...／as if (though)	21
7			21	1			21
8	Lesson 5 誰かにさせたことを表現する	【副詞節】 相関接続詞 時/譲歩などを表す接続詞 目的/結果などを表す接続詞	7	2	Lesson 12 さまざまな表現を使うことで主張や気持ちをより明確に伝える	【さまざまな表現】 強調構文 / doなどを用いた強調 否定を表す語句 部分否定と全否定 倒置	28
	Lesson 6 文と文をつなぐさまざまな表現を使う	【関係代名詞】 関係代名詞whose 関係代名詞what 制限用法／非制限用法					
9	Lesson 7	【関係副詞】 関係代名詞と前置詞	28	3			21

湯梨浜学園

VICTORY
LIST

湯梨浜学園 VICTORY LIST 国語

		評論	小説・詩歌	古文	漢文
中学3年	1学期	☐ 二つの評論を読み比べ、自分の考えをまとめることができる。	☐ 小説内の時代設定から人物の背景を読み取れる。	☐ 用言の活用表が8割以上書ける。	☐ 書き下し文から現代語訳をすることができる。
				☐ 係り結びの法則が理解できている	☐ 返読文字を理解している
		☐ 新聞などの情報を的確に捉えることができる。		☐ 和歌・俳句などの句切れや切れ字などを発見できる	☐ 漢文の文の構造を理解している
		☐ 筆者の主張の進め方を筋を追って捉えることができる。			
		☐ 「必修語彙ノート」の基礎編が7割以上分かる			
		☐ 「キーワードの卵」の全体が8割以上分かる。		☐ 「サクラサク古文単語」の1～100(敬語除く)が7割以上分かる。	
	2学期	☐ 対比構造や演繹法・帰納法を見分けることができる。	☐ 小説の描写・比喩などのレトリック効果を見分けることができる。	☐ 助動詞の接続が完璧に暗記できている	☐ 漢文の句法(再読文字)が分かる。
		☐ 論理的に文章を読みながら、筆者の主張を捉えることができる。	☐ 論理的に文章を読みながら人物や人物関係の心情を捉えることができる。	☐ 学習した助詞(ば・の等)が分かる。	
		☐ 授業で学習した文章の読み方が理解でき、自分で使いこなすことができる。			
		☐ 「必修語彙ノート」の基礎編が8割以上分かる。		☐ 「サクラサク古文単語」の1～100が8割以上分かる。	
		☐ 「キーワードの卵」の全体が全て分かる。			
	3学期	☐ プレゼンテーションの方法などを駆使しながら分かりやすい発表ができる。	☐ 時代背景に合わせた心情を捉えることができる。	☐ 用言の活用表が正確に書ける。	☐ 漢文の句法(否定)が分かる。
			☐ プロレタリア文学など近代文学の流れが分かる。	☐ 「推量・推定・過去・完了・存続・打消」等の助動詞の違いが分かる。	
				☐ 古文の月の異名や時間など基礎知識が分かる。	
		☐ 「必修語彙ノート」の基礎編が全て分かる。		☐ 「古文単語コア」の1～100が全て分かる。	

湯梨浜学園 VICTORY LIST 社会

学期	番号	内容
1学期	1	☐ グローバル化、情報化の進展について理解する。
	2	☐ 少子高齢社会の課題を説明できる。
	3	☐ 対立と合意、効率と公正について具体的課題を説明できる。
	4	☐ 日本国憲法の制定とその基本原理が理解できる。
	5	☐ 日本国憲法で定める基本的人権の用語が理解できる。
	6	☐ 平和主義の意義と日本の役割について説明できる。
	7	☐ 人権保障の国際的な広がりについて説明できる。
	8	☐ 民主主義のしくみが理解できている。
	9	☐ 選挙の基本原則と制度・課題について理解できる。
	10	☐ 日本の政党政治が理解できる。
	11	☐ 国会の働きについて理解できる。
	12	☐ 内閣の働きについて理解できる。
	13	☐ 裁判所の働きについて理解できる。
	14	☐ 日本の三権分立について理解できる。
2学期	1	☐ 日本の地方自治のしくみと課題が理解できる。
	2	☐ 契約自由の原則が理解できる。
	3	☐ 消費者を守る体制と市民社会に向けた消費行動の例が説明できる。
	4	☐ 消費者問題について理解できる。
	5	☐ 流通の役割が理解できる。
	6	☐ 企業の種類が説明できる。
	7	☐ 株式会社のしくみが説明できる。
	8	☐ 労働の意義と労働者の権利が理解できる。
	9	☐ 労働環境の変化と課題が説明できる。
	10	☐ 市場経済と価格の決まり方、動きについて理解できる。
	11	☐ 需要と供給の関係を具体例を使って説明できる。
	12	☐ 寡占と独占のしくみが理解できる。
	13	☐ 貨幣の役割と日本銀行の役割について理解できる。
	14	☐ 景気と金融政策が理解できる。
	15	☐ 円高・円安を利用した問題が解ける。
	16	☐ 為替相場とは何か、説明できる。
3学期	1	☐ さまざまな税金と公平性が理解できる。
	2	☐ 日本銀行の金融政策が説明できる。
	3	☐ 日本の財政政策とその課題が説明できる。
	4	☐ 日本の社会保障制度(4つの柱)とその課題が理解できる。
	5	☐ 公害の発生・防止と対策の進展について説明できる。
	6	☐ 国内総生産(GDP)について理解できる。
	7	☐ 日本の領土をめぐる問題の現状について説明できる。
	8	☐ 国際連合の仕組みとその役割について理解できる。
	9	☐ 世界の地域主義が理解できる。
	10	☐ 南北問題・南南問題について理解できる。
	11	☐ 地球環境問題について、国際社会の取り組みが説明できる。
	12	☐ 日本のエネルギー消費の状況とこれからのエネルギーについて説明できる。
	13	☐ 世界の貧困問題について理解できる。
	14	☐ 地域紛争や民族紛争、軍縮について理解できる。
	15	☐ 難民問題の要因とその解決について理解できる。
	16	☐ 主な国のODA支出の特色が説明できる。
	17	☐ 地域社会の多様性やその尊重についての取り組みについて説明できる。
	18	☐ 青年期と自己形成の課題について理解できる。
	19	☐ カントとミルの功利主義の考え方が説明できる。
	20	☐ 義務論について説明できる。

湯梨浜学園 VICTORY LIST 代数

学期	番号	内容
1学期	1	☐ 多項式の加法と減法の計算ができる
	2	☐ 多項式の乗法の計算ができる
	3	☐ 2次式の因数分解ができる
	4	☐ 3次式の因数分解ができる
	5	☐ 実数について理解している
	6	☐ 根号を含む計算問題ができる
	7	☐ 不等式の性質を理解している
	8	☐ 1次不等式を解くことができる
	9	☐ 絶対値を含む方程式・不等式を解くことができる
	10	☐ 命題と条件について理解している
2学期	1	☐ 証明ができる
	2	☐ 関数についての用語を覚えている
	3	☐ 2次関数のグラフを書くことができる
	4	☐ 2次関数の頂点の座標を求めることができる
	5	☐ 2次関数の最大・最小を求めることができる
	6	☐ 関数の場合分けができる
	7	☐ 2次関数の式を求めることができる
	8	☐ 2次方程式を解くことができる
	9	☐ 判別式について理解している
	10	☐ 2次関数とx軸との位置関係について理解している
	11	☐ 2次不等式を解くことができる
	12	☐ 2次不等式を解くために2次関数を利用できる
	13	☐ 2次不等式の応用問題を解くことができる
3学期	1	☐ データの整理の方法を知っている
	2	☐ 代表値について理解している
	3	☐ 四分位数について理解している
	4	☐ 箱ひげ図から読み取ることができる
	5	☐ 分散や標準偏差を求めることができる
	6	☐ 散布図について理解している
	7	☐ 仮説検定について理解している
	8	☐ 3次式の展開公式を覚えている
	9	☐ 3次式の因数分解の公式を覚えている
	10	☐ 二項定理を利用して問題を解くことができる
	11	☐ 多項式を多項式で割ることができる
	12	☐ 分数式の四則計算ができる
	13	☐ 恒等式について理解している
	14	☐ 恒等式の証明ができる
	15	☐ 不等式の証明ができる

湯梨浜学園 VICTORY LIST 幾何

学期	番号	内容
1学期	1	☐ 場合の数を樹形図を書いて求めることができる
	2	☐ 和の法則や積の法則を理解している
	3	☐ 場合の数を順列を利用して求めることができる
	4	☐ 場合の数を組み合わせを利用して求めることができる
	5	☐ 円順列を求めることができる
	6	☐ 重複順列を求めることができる
	7	☐ 組み分けの総数を求めることができる
	8	☐ 同じものを含む順列を求めることができる
	9	☐ 確率の考え方を理解している
	10	☐ 確率の基本性質を理解している
	11	☐ 余事象を利用して確率を求めることができる
	12	☐ 独立な試行の確率を求めることができる
	13	☐ 反復試行の確率を求めることができる
	14	☐ 条件付き確率を求めることができる
	15	☐ 確率の乗法定理を利用して確率を求めることができる
	16	☐ 期待値を求めることができる
2学期	1	☐ 三角比の定義を覚えている
	2	☐ 30° , 45° , 60° の三角比を覚えている
	3	☐ 三角比の応用問題を解くことができる
	4	☐ 三角比の相互関係を覚えている
	5	☐ 三角比の相互関係を利用して問題を解くことができる
	6	☐ 90° 以上の三角比を覚えている
	7	☐ 等式を満たす θ を求めることができる
	8	☐ 正弦定理を利用して問題を解くことができる
	9	☐ 余弦定理を利用して問題を解くことができる
	10	☐ 正弦定理と余弦定理の応用問題を解くことができる
	11	☐ 三角形の公式を利用できる
3学期	1	☐ 指数が整数の指数法則を利用できる
	2	☐ 累乗根の性質を理解している
	3	☐ 指数が有理数の指数法則を利用できる
	4	☐ 指数関数のグラフを書くことができる。読み取ることができる
	5	☐ 指数関数の特徴を理解している
	6	☐ 指数関数を含む方程式を解くことができる
	7	☐ 指数関数を含む不等式を解くことができる
	8	☐ 指数と対数の変換ができる
	9	☐ 対数の性質を理解している
	10	☐ 底の変換公式を利用し、底の変換ができる
	11	☐ 対数関数のグラフを書くことができる。読み取ることができる。
	12	☐ 対数関数を含む方程式を解くことができる
	13	☐ 対数関数を含む不等式を解くことができる
	14	☐ 対数関数を含む関数の最大値と最小値を求めることができる
	15	☐ 常用対数表を使うことができる
	16	☐ 正の数Nの冪数を求めることができる

湯梨浜学園 VICTORY LIST 理科①

番号		内容
1	☐	矢印を用いて力を表すことができる。
2	☐	フックの法則が分かる。
3	☐	2つの力がつりあう条件が分かる。
4	☐	水圧と浮力の関係を理解している。
5	☐	合力・分力作図することができる。
6	☐	等速直線運動が分かる。
7	☐	慣性の法則が分かる。
8	☐	瞬間の速さ・平均の速さを計算することができる。
9	☐	作用と反作用の関係を理解している。
10	☐	仕事を計算することができる。
11	☐	仕事率を計算することができる。
12	☐	位置エネルギーと運動エネルギーの関係を理解している。
13	☐	エネルギー変換が分かる。
14	☐	生産者・消費者など、食物連鎖が分かる。
15	☐	分解者のはたらきを理解している。
16	☐	物質を単体・化合物・混合物に分類できる。
17	☐	混合物の分離法を説明できる。
18	☐	蒸留装置のしくみを説明できる。
19	☐	同素体の種類と特徴を説明できる。
20	☐	炎色反応する金属イオンとその色の組み合わせを書ける。
21	☐	沈殿の生成によって確認できる元素が分かる。
22	☐	物質の三態の状態変化が書ける。
23	☐	セルシウス温度と絶対温度の変換ができる。
24	☐	原子に含まれる陽子・中性子・電子の数が分かる。
25	☐	周期表の20番までの物質の名称と元素記号が書ける。
26	☐	同位体を説明できる。
27	☐	原子の電子配置が書ける。
28	☐	典型元素の族ごとのグループの名称が分かる。
29	☐	原子から陽イオン・陰イオンになるしくみが説明できる。
30	☐	基本的なイオン式が書ける。
31	☐	イオン化エネルギー、電子親和力について説明できる。
32	☐	同一周期の元素の原子半径の大きさのきまりが説明できる。
33	☐	同じ希ガスの電子配置をとるイオンのイオン半径の大きさの順が説明できる。
34	☐	周期律とグラフの関係が読み取れる。
35	☐	陽イオンと陰イオンを組み合わせで組成式が書ける。
36	☐	イオン結晶の特徴が説明できる。
37	☐	分子内の結合を電子式を用いて書ける。
38	☐	分子式と分子の形の組み合わせが分かる。
39	☐	配位結合のしくみを説明できる。
40	☐	電気陰性度について説明できる。

番号		内容
41	☐	分子の形と極性の関係が説明できる。
42	☐	分子結晶の特徴が説明できる。
43	☐	水が固体になると体積が大きくなる理由が説明できる。
44	☐	共有結合の特徴が説明できる。
45	☐	金属結合の特徴が説明できる。
46	☐	化学結合ごとにその特徴や結晶の例をまとめることができる。
47	☐	2種類の同位体をもつ元素の相対質量が計算できる。
48	☐	化学式からモル質量が計算できる。
49	☐	物質質量とモル質量を用いた計算ができる。
50	☐	物質質量とアボガドロ数を用いた計算ができる。
51	☐	物質質量と標準状態の体積を用いた計算ができる。
52	☐	モル質量、アボガドロ数、気体の標準状態の体積を組み合わせた計算ができる。
53	☐	モル濃度の計算ができる。
54	☐	モル濃度と密度、質量パーセント濃度を用いた計算ができる。
55	☐	化学反応式の係数が決定できる。
56	☐	係数の比とモル比を使って量的関係を調べることができる。
57	☐	酸と塩基の定義が説明できる。
58	☐	反応式を見てブレンステッド・ローリーの酸・塩基を判別できる。
59	☐	酸・塩基の価数と強弱を判別できる。
60	☐	水素イオン濃度をpHに直すことができる。
61	☐	pH指示薬と使える組み合わせが判別できる。
62	☐	中和反応式が書ける。
63	☐	中和滴定で使う器具が分かる。
64	☐	塩の種類を判別できる。
65	☐	中和滴定の計算ができる。

湯梨浜学園 VICTORY LIST 理科②

番号		内容
1	☐	等速直線運動の公式が利用できる。
2	☐	速さと速度の違いが分かる。
3	☐	平均の速度と瞬間の速度をグラフで読みとることができる。
4	☐	相対速度の計算ができる(一直線上)。
5	☐	相対速度の計算ができる(平面上)。
6	☐	等加速度運動における3つの公式が利用できる。
7	☐	等加速度運動のグラフから初速度や加速度、変位を読みとることができる。
8	☐	自由落下の公式を利用することができる。
9	☐	鉛直投げ下ろしの公式を利用することができる。
10	☐	鉛直投げ上げの公式を利用することができる。
11	☐	水平投射の公式を利用することができる。
12	☐	斜方投射の公式を利用することができる。
13	☐	力のベクトルを図中に書き表すことができる。
14	☐	力の合成をベクトルで表し、計算することができる。
15	☐	力の分解をベクトルで表し、計算することができる。
16	☐	バネの公式 ($F=kx$)を利用することができる。
17	☐	力のつり合いを図にまとめ、計算することができる。
18	☐	作用・反作用の力の関係を図示できる。
19	☐	力のつり合いの式と作用・反作用の関係の違いがわかる。
20	☐	摩擦がない状態での1つの物体に関する運動方程式をつくることができる。
21	☐	摩擦がない状態での2つの物体に関する運動方程式をつくることができる。(水平方向)
22	☐	摩擦がない状態での2つの物体に関する運動方程式をつくることができる。(鉛直方向)
23	☐	摩擦力を3つに場合分けして考えることができる。
24	☐	粗い面での力を図示することができる。
25	☐	粗い面での運動方程式をつくることができる。(水平面)
26	☐	粗い面での運動方程式をつくることができる。(斜面)

湯梨浜学園 VICTORY LIST 理科③

番号		内容
1	☐	生物の共通性を説明できる。
2	☐	マイクロメーターで生物の大きさを測定できる。
3	☐	真核細胞の構造を図示できる。
4	☐	各細胞小器官の役割を説明できる。
5	☐	真核生物、原核生物の違いを説明できる。
6	☐	同化と異化について説明できる。
7	☐	ATPの基本構造を図示できる。
8	☐	酵素の働きと性質を説明できる。
9	☐	光合成と呼吸の反応式を書ける。
10	☐	DNAの構造を説明できる。
11	☐	シャルガフの規則をもとに塩基の割合を計算できる。
12	☐	ゲノムについて説明できる
13	☐	真核細胞のDNAの特徴を説明できる。
14	☐	セントラルドグマについて説明できる。
15	☐	RNAとDNAの違いを3つ説明できる。
16	☐	DNAの転写の仕組みを説明できる。
17	☐	細胞分裂における各期の特徴を箇条書できる。
18	☐	間期におけるDNAの複製手順を説明できる。
19	☐	細胞周期を利用して各分裂期にかかる時間が計算できる。
20	☐	恒常性を説明できる。
21	☐	3種類の体液について説明できる。
22	☐	血液循環の経路を説明できる。
23	☐	血球成分の特徴について説明できる。
24	☐	酸素解離曲線から必要なデータを読み取り放出酸素量を計算できる。
25	☐	腎臓の構造とはたらきを説明できる。
26	☐	尿生成における各種成分の再吸収量を計算できる。
27	☐	肝臓の構造とはたらきを説明できる。
28	☐	各器官に対する自律神経系のはたらきの違いを説明できる。
29	☐	ホルモンの特徴を説明できる。
30	☐	内分泌腺と放出されるホルモンについて一覧表が書ける。
31	☐	フィードバックについて説明できる。
32	☐	血糖量調節に関する自律神経系及びホルモンのはたらきを説明できる。
33	☐	糖尿病についてⅠ型とⅡ型の違いを説明できる。
34	☐	脳下垂体を除去した場合の内分泌系の変化について説明できる。
35	☐	生体防御システムのうち化学的、物理的防御について説明できる。
36	☐	自然免疫について説明できる。
37	☐	細胞性免疫の流れを説明できる。
38	☐	体液性免疫の流れを説明できる。
39	☐	免疫系の異常(アレルギーや免疫疾患)について説明できる。
40	☐	ワクチンと血清について説明できる。

番号		内容
41	☐	森林の階層構造の特徴を説明できる。
42	☐	陽葉と陰葉を光合成曲線の違いから判別できる。
43	☐	植生遷移の流れを説明できる。
44	☐	世界の各バイオームの特徴を説明できる。
45	☐	日本のバイオームの水平分布と垂直分布を説明できる。
46	☐	生態系における生物と非生物的環境の相互作用を説明できる。
47	☐	食物連鎖と栄養段階について説明できる。
48	☐	炭素循環を説明できる。
49	☐	窒素循環を説明できる。
50	☐	キーストーン種について説明できる。
51	☐	人間活動を原因とした生態系バランスの乱れについて具体例を挙げられる。

湯梨浜学園 VICTORY LIST 英語

番号		内容
1	☐	現在完了進行形を理解する (L1)
2	☐	現在完了進行形の疑問文や否定文をつくれる (L1)
3	☐	過去完了を理解する (L1)
4	☐	過去完了の疑問文や否定文をつくれる (L1)
5	☐	過去完了進行形を理解する (L1)
6	☐	過去完了進行形の疑問文や否定文をつくれる (L1)
7	☐	“推量”を表すshouldを覚えて使える (L2)
8	☐	may(might)+have+過去分詞を理解して使える (L2)
9	☐	must(cannot)+have+過去分詞を理解して使える (L2)
10	☐	should+have+過去分詞を理解して使える (L2)
11	☐	意志や習慣を表すwill、wouldを理解して使える (L2)
12	☐	used to、ought toの意味と用法を理解して使える (L2)
13	☐	It～(of～) to…の文を正しく表現できる (L3)
14	☐	不定詞の否定形を理解して使える (L3)
15	☐	使役動詞の意味と用法を理解して使える (L4)
16	☐	知覚動詞＋目的語＋原形不定詞を理解して使える (L4)
17	☐	知覚動詞＋目的語＋現在(過去)分詞を理解して使える (L4)
18	☐	seem(appear) toを理解して使える (L4)
19	☐	It seems(appears) that…の文を正しく表現できる (L4)
20	☐	完了不定詞を理解して使える (L4)
21	☐	助動詞を含む文の受動態を理解する (L5)
22	☐	進行形の受動態を理解する (L5)
23	☐	完了形の受動態を理解する (L5)
24	☐	使役動詞・知覚動詞の受動態を理解する (L5)
25	☐	相関接続詞を覚えて使い分ける (L6)
26	☐	「～も同じである」という表現を覚える (L6)
27	☐	“時”を表す接続詞を覚えて使い分ける (L6)
28	☐	“原因・理由”を表す接続詞を覚えて使い分ける (L6)
29	☐	“譲歩”を表す接続詞を覚えて使い分ける (L6)
30	☐	“目的”を表す接続詞を覚えて使い分ける (L6)
31	☐	“結果”を表す接続詞を覚えて使い分ける (L6)
32	☐	関係代名詞whoseを理解して使える (L7)
33	☐	関係代名詞whatを理解して使える (L7)
34	☐	関係代名詞の制限用法を理解して使える (L7)
35	☐	関係代名詞の非制限用法を理解して使える (L7)
36	☐	関係代名詞と前置詞を理解して使える (L7)
37	☐	関係副詞を覚えて使い分ける (L7)
38	☐	関係副詞を正しく省略することができる (L7)
39	☐	関係副詞の制限用法を理解して使える (L7)
40	☐	関係副詞の非制限用法を理解して使える (L7)

番号		内容
41	☐	疑問詞＋do you think…?の疑問文がつくれる(L8)
42	☐	ifとwhetherの用法を覚えて使い分ける(L8)
43	☐	It～that…の文を正しく表現できる(L8)
44	☐	SVC(＝分詞)の文を覚えて使い分ける(L9)
45	☐	have(get)+O+過去分詞の文を理解して使う(L9)
46	☐	make+O+過去分詞の文を理解して使う(L9)
47	☐	SVOC(＝分詞)の文を覚えて使い分ける(L9)
48	☐	分詞構文を理解する(L9)
49	☐	分詞構文の意味を使い分ける(L9)
50	☐	分詞構文の否定形を理解して使える(L9)
51	☐	完了形の分詞構文を理解して使える(L9)
52	☐	比較級+and+比較級の文を表現できる(L10)
53	☐	the+比較級～, the+比較級…の文を表現できる(L10)
54	☐	the+序数+最上級の文を表現できる(L10)
55	☐	直説法と仮定法を理解して使い分ける(L11)
56	☐	仮定法過去を理解する(L11)
57	☐	仮定法過去完了を理解する(L11)
58	☐	I wish…の文を正しく表現できる(L11)
59	☐	as if(though)…の文を表現できる(L11)
60	☐	強調構文を理解する(L12)
61	☐	強調語句を用いた強調を理解して使える(L12)
62	☐	否定的な意味を表す語句を理解して使える(L12)
63	☐	部分否定と全否定を覚えて使い分ける(L12)
64	☐	否定を表す語句の倒置を理解して使える(L12)
65	☐	副詞や補語を強調するための倒置を理解して使える(L12)